



中高生とともに差別と闘う

『やる気スイッチはココに』

吉成タダシ (うずしおブランチ代表)



二度と起こらないように

前号で、今年度新たに実施した人権こども塾の夏季一泊研修についてお話ししました。そのなかで、ミオの初語りについて、彼女の感想を通して紹介させていただきます。

実は彼女の感想はまだ続きがあります。

「この一泊研修を通して、私の将来のビジョンが少し追加されました。それは、『このような差別問題をこれから生まれてくる子どもたちにどう伝えていくか』です。ヒロシマの原爆などは子孫がいまですが、ハンセン病患者は当事者(元患者)しかいません。しかも当事者の平均年齢は八十八歳と九十歳近くになり、だんだんと亡くなる方も増えています。長島愛生園では二人しか語ることができている人がいないといえます。だからといって、これから生まれてくる子どもたちは学習しなくていいわけはありません。だから今のうちに私たちが当事者から聞き、伝え、続けていくことが重要になってくると思っています。そして、こういうことが二度と起こらないように、自分だけで終わらせるのではなく、周囲の人も知っていく必要があると思います。そしていつか、この先生方と一緒に働きたいし、この塾にも教員として参加してみたいです。先生が、私が教員になるまで教員を続けるとおっしゃってくれたのはとてもうれしかったです。あらためて頑張らなくてはと、自分が喝が入りました。」

教育現場に人権教育を

新型コロナウイルスの影響で、ハンセン病療養所施設への出入りが厳しく制限されました。もし感染でもしたら、取り返しのつかないことになるからです。それもあって、それ以前もそうでしたが、なおさらハンセン病問題について突っ込んで学ぼうとする教員が減ったような気がします。

つい先日、ハンセン病問題についての学習をしようと話をしていた若手教員たちに、こんな動画は？こんな資料は？療養所に行ってみない？と提案はしてみるのですが、反応が今一つよろしくありません。どこか余分なこと、のよな感覚。

確かに中学校現場は忙しいです。授業もあれば部活動もあり、その折々に生徒指導案件が起こってはドタバタし、それでも国は授業力向上とかICT教育とか言います。そして、働き方改革。それでは、「何をしておいても人権教育を最優先で」と、自らの学びにまで結びつかないのも致し方ないかなとも思っています。

所轄の教育委員会や地域の実情として、「人権教育を教育の根底に据えて」とでもいった大号令でもあれば、また違った動きが可能になってくるのかもしれませんが、皆さんのお住まいの地域ではどうでしょう？

いずれにせよ、高校や大学にも期待薄のなか、ミオのような志をもった若者が教員志望でいてくれることは本当に心強い限りです。

やる気スイッチはココに

一泊研修、夜の研修会ではミオの他にも、中学時代不登校だったカンタは当時をふりかえり、将来の夢について熱を込めて語りました。自身の訥音について語るアツトは、障がい者問題にふれ、自分の夢について語りました。みんなそれぞれの事情を抱えながら、それでも自分の夢に向けて懸命に生きようとしています。

人権こども塾に参加する中高生の背景は様々です。しかしそのどれにも、その人にしかない、その人だけのストーリーがあります。「みんな語り合う人権学習」は、そのストーリーに自ら向き合うということではないかと思えます。

向き合わない限り、自分が生きる方向性は見えてきません。向き合ってから初めて意味深い一歩を踏み出せるのだと思います。つまりそれは、自ら望んで自己を高められる自分に変容していくということです。強制的にやらされて学力をつけるだけではないということです。多くの人が求める、いわゆる「やる気スイッチ」は、「みんな語り合う人権学習」のなかにこそあるのではないかと、私は思っています。

その人の人生や生き方そのものを変えてしまうだけの高い潜在力があるのではないかと、私は思っています。

人はなぜ差別するの

今回は、保護者も三人引率について来ていただきました。といっても、世代は違っても同じ中学校

の教え子たちです。みんな学習会一泊研修に参加していた子たちでした。だからなお一層思い入れも深く参加できたし、何よりそれぞれの親子関係が、さらにより良いものに変わっていったのではないかと思います。

自分のルーツを伝えること。そのどこがおかしいでしょうか。それをたどれば、あなたも私も、みんなルーツは同じです。数万年前にアフリカ大陸を出て、アジアの東にたどり着いたルーツは、共通してみんな同じです。なのに、妙な理屈をこねては他人を排除しようとする。そんな関係性や、そんな社会の方こそが、おかしいのだと思えます。

ある番組で、「なぜ人は差別をするのか」という問いに、幾人も「弱いから」と答えている場面がありました。確かに、と思いません。と同時に、弱いことはいけないことか？とも思いました。私は弱い。じゃあ私はいけないのか。私は差別をする人間か。確かに差別をしているかもしれない。しかしそれに抗おうともしていません。どういうことか？

考えた結論はこうです。弱いのがいけないことではない。人は誰もいろいろな弱さを抱えている。しかし、自分の中にいる弱さと向き合えないこと、対峙しないことは大きな問題だ、という事です。自分の弱さとちゃんと向き合っている人間は、人を差別しないように思うのですが、いかがでしょうか。